

# 職員研修 報告書・レポート

令和 元年 12月 28日 (日)

氏名 ●● ●●

① 研修名： 外部研修 ①心理検査の結果から支援方法を考える。  
②TTAPとESPIDDによるアセスメント・T-STEPによるトレーニング

② 研修内容：①同上

AM 倉本先生の講義、WAIS-4の解釈について  
PM 梅永先生 TTAPとESPIDD、T-STEPの理解

③ 成果/感想：

AM 倉本先生の講義、前日と同様 WAIS-4の解釈は難しい(心理検査の予備知識が必要)何を調べたいか、結果どのような解釈ができるのか。根拠のある方針や支援方法を模索することができる。解釈の理解を深めることができたが、専門領域であり自身の活用に不安が残る。

PM 梅永先生の講演はさすが！！と感じた。自閉症が少しずつ加え UPされ、それと同時に様々なツールや支援方法の開発、変化が生じている。今回の研修での学びをぜひ今後活かしていきたい

④ 今後の支援に活かすため、具体的に実行する行動：

発達障害は形や言葉で表すことが難しい。同じ支援方法はなく、その人によって得意・不得意に個別性があること。置かれている環境や特性上、何にどんな反応・支援が必要なのか理解していく必要がある。また、何かの拍子で不応を起すこと、その環境にそぐわなくなることが十分にある。

心理検査や他ツール・アセスメントは見立てを立てることへの手段、その見立てには根拠や妥当性が必用である。ましてや知的に遅れのない対象者だと、その解釈も難しくなる。その弱みは社会的に影響を受けてしまう。

正しい支援方法というのは存在しない。方策を練ること、可能性を探ることが必要である。相談支援でも活用できる手段がある。見通しの付く支援、方法を今後も模索していきたい。